

## 第5章 文化を高め、しあわせなまちに

### 第1節 生涯学習 で生きがいを持つ

#### 1 生涯教育（社会教育）

##### （基本的な考え方）

- 町民の学習活動を奨励、促進するための環境づくりを総合的に進めます。また、学習成果がまちづくりに活かされるように努めます。

施策	現況と課題
<b>生涯学習の推進体制の確立</b>	<p>近年、年齢を問わず学習への関心が高まっており、家庭・学校・職場・地域社会で行われるすべての学習である「生涯学習」を推進し、一人ひとりが学び評価されることを支援する体制が必要となっています。</p> <p>本町では、さまざまな機関・団体に講座や研修などが開催されているほか、町民が主体的に取り組む文化・スポーツ活動などが生涯学習活動として活発に行われています。生涯学習の情報については、生涯学習だより「みどり野」の発行や町のホームページを通じて広く提供するように努めていますが、今後さらに関係機関・団体との連携を深め、生涯学習に関する幅広い情報提供と学習情報の一元化を図ることが必要です。</p> <p>また、学習活動で得た知識や技術をまちづくりの中で活かしていくことのできるしくみづくりが必要です。</p>
<b>生涯学習関連施設の整備</b>	<p>町内には学習活動の場としてマナビティーセンターのほか、町民会館や図書館、博物館・農業館などが利用されています。博物館・農業館については、一本化した運営が、図書館については図書資料の充実がそれぞれ望まれています。</p> <p>特に文化芸術鑑賞や活動発表の場である町民会館の老朽化が進んでおり、設備やバリアフリーの観点からも、町民会館に代わる新たな施設の建設が望まれています。財政事情の悪化などにより、建設には至っていないのが現状ですが、文化芸術活動の拠点としての施設整備が必要です。</p>
<b>生涯学習活動の促進</b>	<p>マナビティーセンターでは、各サークルが主体的に講座を企画・運営するなど、活動の成果を地域に活かす取り組みが広がっています。町民の主体的な学習活動や地域の方々による子どもの体験機会づくりを奨励するなど、「生きがい」から「やりがい」を感じられる学習活動が求められています。</p> <p>図書館については、北見地区ネットワーク事業・道立図書館ネットワークを利用して相互貸借や図書検索が行われているほか、ブックスタートにより子どもたちから本に親しんでもらうよう努めています。今後も図書資料の充実や利便性の向上が求められています。</p> <p>博物館・農業館は、特別展・企画展開催期間以外の一般入館者が減少しているものの、講座や教室への参加者が増加しています。常設展示の更新など展示内容の充実が課題となっています。今後も地域に根ざした学習の拠点として関係機関と連携しながら学習機会を提供していくことが求められています。</p>

## 主な取り組み内容

- 生涯学習推進体制の整備
- 公共施設の空き情報のシステム化
- 地域活動に関わる人材の登録と活用促進
- 地域活動への参加奨励および機会の充実

- 博物館・農業館の一本化
- 図書館における郷土図書資料の充実
- 町民会館を利活用したホール機能整備

- 住民参画による生涯学習活動の拡充
- 住民主体による生涯学習活動の奨励
- 図書館ボランティアの育成と活用
- 博物館における学校教育との連携
- 美幌町子どもの読書活動推進計画による読書活動の推進

生涯学習：自己の充実・啓発や生活の向上のため、個人の自発的意志に基づき、あらゆる生活の場において行われる学習活動であり、必要に応じ、自己に適した手段・方法を選択し、生涯を通じて行われる。

バリアフリー：障がいのある人が生活するうえで障壁となるものを除去すること。施設・設備面だけでなく制度やサービスなども含む。

ブックスタート：新生児のいる家庭に絵本をプレゼントする、1992年にイギリスではじまった運動。

## 2 文化・芸術

### (基本的な考え方)

- 町民が文化芸術に親しめるよう、活動の場や鑑賞機会の充実に努めます。また、文化財や郷土資料を収集、保存し、次代に継承します。

施策	現況と課題
文化芸術活動の促進	本町には文化・芸術活動を行っている団体・サークルが数多くありますが、会員の高齢化や固定化が見られることから、環境を整備し、幅広い年代が親しむことができる活動を奨励していくことが必要です。
文化芸術の鑑賞機会の充実	本町では、マナビティーセンターや文化祭において、町内で活動する文化芸術活動の発表が行われているほか、町外からの招へいによる演劇や音楽などの公演や演奏会などを開催し、芸術鑑賞機会の提供に努めています。今後もさらに、幅広い文化芸術を鑑賞する機会の充実に努めていくことが必要です。
文化財や郷土資料の収集、保存	町文化財については、美幌小学校の「カシワの木」、瑞冶足柄奴、ベニバナヤマシャクヤク自生地、絵模様礫の4点が指定されています。 地域の大切な資源として、文化財や郷土資料の収集、保全に努めていくことが必要です。
歴史の継承	本町の歴史や文化を後世に伝えていくため、今後は地域文化に関わる伝承を進めていくことが必要です。

## 主な取り組み内容

- 文化関係団体の育成
- 団体・サークル活動の成果の発表と交流促進

- 芸術鑑賞事業の内容充実
- 町民主体による芸術鑑賞事業の奨励

- 文化財の保全、保護
- 郷土資料の収集

- 地域文化伝承者の発掘、調査

ベニバナヤマシャクヤク：盗掘等により絶滅の危機にある、ボタン科草木種の絶滅危急種の植物。

絵模様礫：縄文時代中期の絵模様付礫。角の丸まった三角形の扁平な石の表面に黒色の顔料で模様が描かれた全国的にも貴重な考古資料。

### 3 スポーツ

#### (基本的な考え方)

□スポーツを通じて心身の健康が促進されるよう、生涯スポーツの普及に努めます。

施策	現況と課題
生涯スポーツの振興	<p>心身ともに健康で充実した生活を営むためには、生涯にわたりスポーツ活動に取り組むことが大切であり、誰もがいつでもどこでもスポーツに親しむことができる社会の実現が課題となっています。</p> <p>また、スポーツ振興に加え、世代間の交流、高齢者の社会参加、町民の健康体力の保持と増進など地域社会の形成に大きな役割を果たす総合型地域スポーツクラブの設立が求められています。</p> <p>そうしたクラブ運営やスポーツの普及にはさまざまな分野の指導者が不可欠であり、関係機関との連携を図りながら、競技者に加えて指導者の活動を支援できる体制を整備することが必要です。</p>
スポーツ施設の整備、活用	<p>町内にはスポーツを楽しめる場として、屋内スポーツの中核施設であるスポーツセンターをはじめ、柏ヶ丘運動公園、網走川河畔公園、あさひ運動公園、リリー山スキー場などの施設があります。</p> <p>スポーツセンターなど老朽化が進み、大規模改修が望まれている施設もあり、対応が望まれています。</p> <p>また近年は手軽に楽しめるスポーツとして、パークゴルフが普及しており、町内にもパークゴルフ場が整備されていますが、より一層の充実が求められています。</p>
スポーツ活動の促進	<p>町内では各種スポーツ教室、スポーツ大会が開催されるなど、スポーツレクリエーション活動がさかんに行われています。今後も関係機関、団体との連携を深めながら指導者の協力により、こうした活動の奨励、促進に努めていくことが必要です。</p> <p>ラグビー、バスケットボール、陸上競技などの全国レベルチームが合宿に来ており、選手の滞在による経済効果が見込まれています。また、町内中高生の部活動や少年団に対する指導が行われ、技術レベルの向上が図られています。今後も関係団体と連携しながら合宿誘致の推進に努める必要があります。</p>

## 主な取り組み内容

- スポーツ振興体制の充実
- 総合型地域スポーツクラブ の設立検討
- 指導体制の充実と支援体制の強化

- 既存施設の定期的維持補修

- スポーツ合宿の誘致と団体支援
- 指導者の確保、育成、研修機会の充実
- 学校体育授業への指導者派遣等人材活用
- 競技スポーツ技術力の向上

総合型地域スポーツクラブ：地域住民が主体的に運営する複合的なスポーツクラブ。さまざまなスポーツにおいてレベルや世代を越えて集まり、楽しむことができる場をめざしている。（文部科学省が平成7年度より進めている）

## 第2節 地域に根ざした学校教育を進める

### 1 幼児教育、学校教育

#### (基本的な考え方)

- 時代に応じた教育環境や教育水準の向上を図るとともに、地域資源を活かした教育内容の充実に努めます。

施策	現況と課題
幼稚園の充実	町内には、私立幼稚園が2園あり、幼児教育を行っています。幼児教育の振興をめざし、就園の奨励や教育内容の充実促進に努めていくことが求められています。
小中学校の教育環境の充実	町内には、小学校が市街地に3校と周辺地域に複式校が2校、中学校は、市街地に2校あります。近年は少子化により、児童・生徒数は年々減少しており、今後は地域の理解を得ながら通学区の変更や適正配置が必要となってきます。 施設や設備については、老朽化による危険性の高いものから計画的に修繕を行っています。IT教育に対応した環境整備や余裕教室の有効活用などが課題となっています。
小中学校の教育内容の充実	地域資源を活用した授業の取り進めや地域住民の参画による「ひらかれた学校」の実現に努めています。今後も、地域に根ざした教育を進め、基礎と基本を大切にしながら確かな学力と豊かな心を持った児童生徒の教育に努めることが求められています。 学校給食は、センター方式により栄養バランスのとれた安全・安心できる給食を提供しています。食育の推進が求められているなか、各学校、家庭、地域の一層の連携が必要です。
高等学校教育の充実	町内には、道立の美幌高等学校、美幌農業高等学校がありますが、少子化に加え北見市への通学者が増えていることから、間口が減少しています。 適正配置が課題となるなか、生徒数の確保に向けた取り組みを進めていくことが必要です。

## 主な取り組み内容

- 就園に対する支援
- 教材、研修に対する支援

- 学校用備品、教材等の整備充実
- 教育用コンピュータなどIT教育環境の整備充実
- 複式校の解消

- 地域資源（自然、環境、人）を活用した学校教育の充実
- 地域と一体になった学校づくりの推進
- 栄養教諭の配置による食育の推進
- 地元の食材を使った学校給食の充実
- 特殊教育から特別支援教育 への体制の移行

- 間口確保のための要望活動

複式校:二つの学年以上の児童又は生徒を一つに編成した学級を有する学校。

食育:栄養の偏り、不規則な食事、安全性の問題や食文化の継承など、生産から消費まで一貫した「食」に関する考え方を、家庭、学校、保育所、地域等を中心に育むことを国民が総合的に推進すること。

特別支援教育:これまでの特殊教育の対象としてきた盲者、聾者、知的障がい者、肢体不自由者、及び病弱者等の児童生徒に加えて、通常の学級に在籍するLD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥/多動性障がい)高機能自閉症等の児童生徒も含め、個々のニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を行う教育。